

イランとガザをめぐる 中東政治の動向と 国際政治秩序の変容

～ 日本と市民社会の役割 ～

ウクライナ侵攻、ガザで続く戦闘、米国・イスラエルによるイラン攻撃——中東の緊張は、エネルギーや安全保障を通じて、日本の私たちの暮らしにも直結しています。

日本国内では、安全保障政策や武器輸出政策も大きく変容し、非核三原則の見直しを主張する動きもあります。中東政治の現在を読み解き、日本が平和主義をどう実践できるのか、一緒に考えませんか。

2026年11月7日（土）

参加費無料
事前申込不要

午後2時～午後5時



会場 広島弁護士会館 3階

広島市中区上八丁堀2-73

※会場には駐車場がありません。
公共交通機関でお越しください。

講師

錦田 愛子

慶應義塾大学法学部 教授

パレスチナ／イスラエル紛争を中心に、現代中東政治と移民・難民を研究。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授などを経て現職。朝日新聞デジタル・コメンテーター、Yahoo!ニュース エキスパート、NGO「パレスチナ学生基金」理事。著書に『パレスチナ／イスラエルを読み解く』、共著に『世界政治2』など。

